

令和3年度 県立学校プロジェクト学習推進事業  
実施報告書【課題実践校用】

学校番号	4
学校名	富山県立新川みどり野高等学校

学校の現状と課題	小中学校で不登校を経験したことのある生徒、様々な悩みや問題を抱えている生徒、他との関係を上手く作りだせない生徒、特別な支援を必要とする生徒等が多い。そうした生徒の多くは自己肯定感が低く、将来への展望を見いだせていない。また、基礎学力や社会的自立能力の定着が不足している等、学習や学校生活に問題を抱えている生徒が多い。	
テーマ(特色)	多様な生徒への支援の充実	
設定した「テーマ」の達成状況	(1)生徒理解の推進 研修会や講演を通じて、支援を要する生徒の状況や障害の程度についての理解を深めることで、教員が適切に対応できるような生徒理解を行うことができた。 (2)特別活動の活性化 コロナ禍のため、ボランティア活動は殆どできなかったが、実行可能な学校行事等を通して生徒の自己肯定感を高めることができた。 (3)ICT活用の充実 特に自立活動のための教材・教具を充実させることで、生徒一人ひとりに応じた学習環境を整備することができた。	
実施内容 (具体的に記入する)	(1) 魚津神経サナトリウム副院長(精神科医:高橋哲也)氏を講師として招き、特別支援(「発達障害への理解と支援」)に関する講演を聴いた。また、年間20回のケース会議を実施したり、特別支援を要する生徒の状況を定期的に報告したりして生徒情報の共有に努めた。また、教職員による実践例の紹介や学校カウンセラーからの助言等を含めた校内研修会を開催した。 (2)コロナ禍ではあったが、感染対策を講じながら、年度当初予定していた学校行事をおおた開催することができた。また、生徒会や各種委員会を中心に生徒・教職員が話し合いをしながら、それぞれで企画・立案した行事等に取り組むことができた。対外的なボランティア活動は殆ど参加することができなかったが、6月と10月には里孫活動として感染対策用防護エプロンを作成(各月700枚)し、近くの特別養護老人ホームへ寄付することができた。また、手紙や作品制作を通しての交流活動、環境整備による地域施設との交流活動、里孫さんとの限られた時間での交流活動を行った。 (3)自立活動のためのICT関連の教材・教具を充実させることで、生徒一人ひとりに応じた学習環境を整え、生徒の指導に当たることができた。	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	・本校に在籍する生徒の実態に応じた指導や支援に向けて、専門の講師による講演会を通じて、特に発達障害に対する知識を深めたことで、関係する生徒への具体的な対応方法を理解することができた。また、自己理解を深めること、自分の気持ちをコントロールすること、他者の気持ちを理解すること、自分の言葉で表現すること等、事例を使いながらの研修により、生徒の指導・支援に向けての実践力を培うことができた。 ・コロナ禍の中、各種学校行事を実施するための工夫を、教職員と共に生徒会や各種委員会で話し合い活動を行った。このような活動を通して、生徒が考えて行動する力を育むことができた。また里孫活動では、制作活動や交流活動を通じて、生徒一人一人が達成感や協力する喜び、他者のために自分が役立っていることを実感することができ、人としての成長に繋がった。 ・生徒の特性に応じた指導を行うために準備した教材により、より最適な学習を行うことができた。それにより、人前での緊張感をほぐす方法を身に付け、自ら発言したりできるようになった。また、自分の考えを言葉として書き出したり、声に出して発言したりできるようになった。このようなことから生徒のソーシャルスキルやコミュニケーション能力が着実に育まれた。	
対象者(学年・人数など)	生徒理解:約30名、学校行事:全校生徒117名、ボランティア:約30名、里孫活動:約12名、ICT活用:全校生徒117名	
実施実績	4月	生徒理解研修会
	5月	特別支援・教育相談委員会、里孫活動、グリーンコンサート(文化部発表会)
	6月	特別支援・教育相談研修会、スポーツフェスティバル、里孫活動
	7月	
	8月	講演会(発達障害)
	9月	自立活動の説明と次年度受講者募集(全年次)
	10月	校内環境美化活動、新川キャンパスフェスティバル、里孫活動
	11月	特別支援教育中間報告、里孫活動、自立活動受講者決定(全年次)
	12月	球技大会、里孫活動
	1月	
	2月	特別支援教育まとめ、次年度特別支援を要する生徒の決定(全年次)、グリーンコンサート(文化部発表会)
	3月	自立活動の趣旨説明